平成２２年度第２回高知県教育振興基本計画推進会議の議事概要

１　日　時　平成２２年５月１７日（月）　１３：３０～１６：００

２　場　所　こうち男女共同参画センター「ソーレ」３階　大会議室

３　出席者　○委員：　松永委員、岩塚委員、加藤委員、徳久委員、時久委員、森委員、村岡委員
○県教育委員会等：池教育次長、佐藤子育て・親育ち推進監、教育委員会事務局各課長、教育センター所長、中部教育事務所長、心の教育センター所長、私学・大学支援課長（以上代理含む。）、その他教育委員会事務局職員

４　概　要

・議題（１）「教育の日」について

各関係団体からヒアリングを行う。

＜高知大学　発表＞

まず、意義や理念について。県民全体で教育を考えるきっかけとなる日、これが定義と考える。私ども教育関係に携わっている者としてはそれで分かると思うが、一般市民がこれを読んだだけでは、漠然としてよく分からないかもしれない。であるから、「教育の日」を作ることは、非常に意義があることであるし、もう少し具体的な経緯、その意義、理念を示したらいいのではないだろうか。

次に、この日の時期や期間について、他の都道府県や四国の他県の資料も読ませていただいた。何月何日などのように１日だけのところもあるが、ピンポイントでその日だけ何かするのではなく、この「教育の日」を中心に、少なくとも一週間程度いろいろな活動をすればいいと思う。

３つ目、関連行事として各団体で考える活動内容を２つ挙げた。まず、両親が学校の講師となり、父兄も参加する授業参観日をつくる。子どもの教育というのは、学校だけでやるのではなくて、家庭も巻き込んでやるべきである。「教育の日」に学校で何か活動をする場合、先生がやるだけでは、「学校で何かやっているぞ」程度しか家庭で思われない。そうした授業参観日の実施など、学校と家庭が一体となった教育をしていくスタンスがよいのかなという気がする。

もう１つは、高知県は、海、山、里、いろいろな野外実習をするフィールドがある。学校の先生がそういった場所に生徒を連れて行き、学習に至るまで全部それをやるのは難しいだろうから、例えば高知大学の教員が講師などしてみたらどうか。大学でやっている研究の一番はじめの面白さみたいなものを、生徒たちに伝えることができればいいのではないかと思う。

最後になるが、その他のところでは、こういう「教育の日」を決めて、教育委員会なり、学校長なりがやられているようだが、一部の先生方、あるいは、一部の人がやっていくのではなくて、学校全体で「教育の日」の意義を理解し、それに向かってやっていく意識が必要ではないかと思う。

○副議長

私も一番こだわっているのは、「何のために、どういうことをするために、あるいは、何を変えようとするために、我々は「教育の日」を制定しよう」としているのか。その議論が不十分なままでは、形骸化してしまうと思う。

高知大学に勤務されて、また高知県の教育を外からご覧になられて、どんなことが一番課題と思われるか。もう１つは、高知県の教育風土として、こういう点は改革していけばいいのではということを是非聞かせてほしい。

〇高知大学

私はもともと農学部の出身で、海洋微生物の研究をしており、フィールド研究に頻繁に出る仕事をしている。先ほど申し上げたが、高知県は非常にいい自然環境が残っていて、これを教育に使わない手はないと思っている。

そうしたときに、小学校は小学校のレベル、中学校は中学校のレベル、高校は高校のレベルで、高知県にあるいろんな海、山、川を、その野外実習にもっと使っていくような教育があれば良いと思う。最近理科離れがよく言われており、高知県だけの問題じゃないかもしれないが、理科の授業であまり実験をしていないと聞く。理科離れというのは、フィールドに出ないとか、実験をしないで、いわゆる座学、学校の授業だけでやっているため、なかなか、皆興味を持たないのではないかと思う。

＜高知県市町村教育委員会連合会　発表＞

県下それぞれの市町村に対して、組織としてのアンケートという形で回答を集めた。そして、四つの地区連ごとに、それぞれの市町村の意見をまとめたものを作ってきた。

まず、一番目の「教育の日」の意義や理念について。人間形成のため、社会構成上基礎となるべき「教育の日」については、総意として最重要的な課題であると指導しており、そう認識している。しかし、先ほどの意見にもあったが、この「教育の日」の制定が既定の路線として議論されているのであれば、我々としては少し課題を感じる。

例えば、この制定前から出発すると、目的、あるいは意義が甘くなり、大変アバウトになりがちと考える。そして、最も大切なことだが、現在の高知県における教育課題、問題点が何かということをきちんと明確にし、この制度によって何が変わるのか、何を変えなければならないのかを問われている。そういった観点から、県市教連として次のようなことを考えている。

まず、県民挙げての教育改革ということで、土佐の教育改革が実行されてきた。その中で、学校、家庭、そして地域の連携による教育的な風土が作られてきたのでは。あるいは得られたのではないだろうか。しかしながら、非常に大きな課題もあるので、高知県の教育風土の成熟度という点においては、まだまだ、たくさんの課題がある。その理由として、教育は学校と教育行政が行うものという強い観念が、解消されつつあるが未だにあるのではないかと考えられている。

現在、「親子関係の構築、見直しの必要性」や「家庭教育のあり方」、「地域の教育力の弱体化」等が問題となっているということであり、この「教育の日」の制定を契機にして、学校、教育関係者のみが教育に関わるのではなく、県民総てが教育に関わっていく意識を持つ必要があるのではないかと思っている。そういったことも含め、是非、この「教育の日」を県下的な拡がりと、そして、継続性のあるものとして制定されることを期待している。

そして、先ほどのことに関連するが、学校教育のみが教育ではない。生涯学習という点が大変重要であると考えているので、人間が生まれて年齢を重ねるにつれて、生涯にわたって学び、そして土佐の郷土を愛し、地域社会に貢献する人づくりは、未来を形成していく上で非常に重要なものであると考えている。しかしながら、現在、物事を学ぶことの意義、あるいは学ぶ喜びを享受する学習が、目的のための手段になっているのではないか。このことについては、教育行政に関わる者として、本当に反省をしなければならないと考えている。

そして、目的を達成すると、その学びから逃避する傾向が見られることもあると思うが、学習については、決して終着点というものはないと考えているので、生涯学習は本当に大切であり、生涯にわたって学び続けること、そして学ぶこと自体に、人間としての生きがいがあると思っているので、そのような教育風土の醸成に、「教育の日」の制定が活かされることを期待しているし、県市教連としても、最大限の努力、尽力等々を果たしていきたいと思っている。

2 つ目の教育の日を定める場合の時期や期間については、やはり今年のメインイベントである「生涯学習フォーラム高知大会」を記念して、その開催の日あたりにしたらどうかという意見も出ていた。それから、11 月 1 日は教育委員会法により、我が国で教育委員会が発足した日であり、昭和 23 年の 11 月の 1 日ということで、1 が三つ並ぶということで覚えやすい。

それから、現在、大変人気を博している NHK の大河ドラマ「龍馬伝」の坂本龍馬にちなんで、11 月 15 日の誕生日はどうかという案もある。あるいは先ほども出ていたように、「教育の日」1 日ではなく、11 月を教育月間と定めてやったらどうかという案。また 11 月 3 日、祝日でもある文化の日の前後 1 週間あたりに、いろいろな催しものを行ってはどうかという案などが寄せられている。

その他「教育の日」の関連行事として、各団体で考えられる活動内容については、読書の推進といった、ふれあいや関わりの持てるような取り組みや、広く県民に広報し、幼児から高齢者までが教育に関心を持てるように、意義ある講演会等々を実施するという案。また、年代に応じた各種催しや、関連文化施設の無料開放、3 世代交流の推進の場をつくるなどの案を挙げさせてもらっている。

さらに、高知県民の教育として条例制定すべきものとして、県議会の議決が必要ではないかと思っている。また、県民に「教育の日」の制定の事実とか、意義などを広く周知徹底し、大きな県民運動としていくためには、マスコミの方々の力を借りることが必要ではないかと思っている。何らかの形で、マスコミ関係の方たちにも組織に入っていただきたい。

○副議長

事務局に聞きたいが、アンケートの配布先である 28 団体の中にマスコミが入ってないというのはどうしてか。こうしたキャンペーンを張る時に、マスコミの方々は絶対に必要だと思うが、なぜ入っていないのか。

○事務局

今回のアンケートの配布先は、生涯学習フォーラムの実行委員会に入っておられる団体を中心にピックアップしている。マスコミの方々は参与として会議に参加されているので、配布先から外させてもらったのが理由の一つ。

もう一つは、マスコミの方々に日本の教育に協力いただくとしたら、一企業として協力いただく場合と、我々ほかの団体がやる活動の広報・媒体として協力いただく場合と二つの方向性があると思うが、一企業として参加の場合には、別途、商工会議所とか、商工関係の団体にも意見を伺っているので、そちらを飛び越えて、話を伺うのはおかしいかなと思い割愛させていただいた。

媒体として協力いただく場合は、また別途協力をお願いしなければいけないと思っており、そのような考えで今回、直接のアンケート対象にはしていない。この場であえてという意見であれば、また別途依頼することを考えてみたい。

○副議長

今後、これを県民運動としてやっていくときに、絶対外してはならない一つのファクターだと思う

ので、是非、そういう方向で行ってもらいたい。私たち教員がよく思うことは、全ての学校教育、あるいは一定の社会教育ぐらいまで話はいくのだろうが、そこまでが非常に遠い。だから、高知県全体の教育風土の醸成ということを考えると、マスコミ関係の人たちにも大きく関わっていただき、みんなで運動していくことが非常に重要だと思っている。

＜高知県小中学校長会　発表＞

この「教育の日」については、4 月の理事会で説明してもらい、小中学校長会の全部、支部の方でも検討をいただいたところであるが、なかなか全員が集まって協議することができず、主だった役員の方々の意見をまとめたものである。

「教育の日」の意義や理念については、同じものにするのが良いと思う。ただ、この日を制定したときに、高知県全体のものにしていくという考えが一番大切であり、また難しいところであると思う。「教育の日」の意義や理念について周知徹底を図るには、校長会を含め、PTA 等がきちんと受け止める必要がある。

それから、「教育の日」の実施期間については、1 週間とか 1 カ月という期間の中でやるのがいいと思う。ただ、活動内容については、アンケートで例に挙げられているようなものは、かなりの学校で既にやっている。それがこういう形で出てくるというのは、それぞれの学校の地域へのアピールが抜かっており、十分でないからだと思う。特に、今年度については、すでに各学校でスケジュールが組まれているので、「教育の日」が制定されるとしても、その月間に合わすのはなかなか難しい。来年度の日程であれば、十分配慮してできると思う。各自治体、あるいは各学校が、子どもたちや地域の状況に応じて検討しているので、「これだ」というものを決めていけばいいと思う。

その他では、保護者の方々にかなり徹底しているものの、なかなかうまくいかない。参加してもらいたい保護者に参加していただけない現実もあり、「教育の日」の制定等を含めて、やはり地域で子どもを育てるという意識を高めていく必要があると思う。

○議長

こういう検討状況なので、例えば制定ということが何らかの形で決められたとしても、今年度から実施するのはなかなか難しいのではないか。

○事務局

今年度の生涯学習フォーラムの大会を検討する中で、閉会式のときに「教育の日」を宣言できればそのときに行いたいが、実際に動き出すのは来年度からになると思う。

＜高知県退職女性校長会　発表＞

私たちの会は 60 歳から 84 歳までのメンバーで構成されている。現在、60 歳から 70 歳までの退職校長は、現場の学校支援教員などとして週に何日か出勤をして、授業研究や、子どもの資質・学力、教室に行けない子どもたちの心について、現場教員と話をしている。そうした状況なので、全員揃うことはなかなかできない。この問題もじっくり討議したかったが時間が持てなかった。

現場教員と退職女性校長会の現場に関わっている人たちの話を聞いて思うが、教員の資質向上や研修はもちろん大事であるが、今、学校で起こっているいろいろな問題の中には、教師だけではとても抱えきれない問題がある。私たちは現場へ行くことは少ないが、心はいつも学校現場にある。その教員の話を聞くと、「何とかせないかんね」といつも話題になる。

平成18年12月に、教育基本法の改正がなされたが、その中で家庭教育についてという項目がある。父母またはそれに関わる保護者は、子どもたち、子女の教育習慣を身につけさせ云々と制定されている。続く13条には、学校と家庭と地域住民との連携が必要であるという文言が記載されている。

ところが、最近皆さんもご存じだと思うが、子どもへの虐待は後を絶たない。今日も高知新聞に1歳の子どもを「泣き止まない」といって床に叩きつけた母親の記事があり、その子どもが16日に死亡したという記事が載っていた。学校教育のみならず、地域社会との連携が非常に必要であると思う。事件が起こって調査が入ると「妙にあそこで子どもの泣き声が太かったよ。再々泣きよったよ。」という声がある。でも、それはもう後のまつりで、幼い子どもたちが、そのような虐待で死亡している例がたくさんある。学校と家庭と地域が三位一体となって強力に連携し合い、教育を推進することが必要だということを切実に思う。今日もランドセルを背負った私の地域の子どもたちが、嬉々として学校へ行っている。しかし、その背中には、その子に応じた喜びや悲しみをいっぱい背負って、学校へ行っているということを思うと心が痛む。だから、この教育の日ということの意義云々よりも、第一に子どもの幸せと、県民みんなが教育に対する意識を高めるという意味で、私は、教育の日を制定することは大変意義があると思う。

2つ目の「教育の日」のことでは、全国連合退職校長会が平成8年にこの制定を呼び掛けられたことを先日知った。その後、徐々に普及したが、全部の市町村に行き渡っているわけではなく、高知県はまだ制定ができていないという現実であるが、11月という時期は、文化祭など行事もたくさんあり、高校や中学校は本当に忙しい。その点で、どうなのかとも思うが、先ほど、私が言った「やはり、強力に連携し合わなければ」という意味からも11月1日が良いと思う。ただ、みんなが参加できることを考えると、土曜か日曜でないと参加できない人もいるので、11月の第1土曜か日曜、第2土曜か日曜にしたらどうだろうか。

関連行事としては、今こそ地域に目を向けて、PTA と特に若いお母さんたちとの連携が必要ではないか。どこかの地域では既に実施されていると聞いたが、保護者だけでなく、その地域に住んでいる誰もが自由参観をして、話し合いができる自由参観日や子どもと共に遊ぶ行事など。また、地域を歩いて地域の良さや問題点を見つけてくる「歩く会」等々いろいろある。現在、現職女性校長会と退職女性校長会がじっくり話し合う時間があまりない。だから、こんな日があれば、皆が集まって交流ができるのにと思う。

その他のことでは、他県の取り組みについていろいろな方に伺ってみたが、全体に広がっているようではない。東京などは区がたくさんあって取り組みもまちまちなようである。今後、他県がどのような取り組みをしているのか、情報の提供をお願いしたい。また、推進にあたっては予算化が必要である。各県の予算を見せていただいたが、高知県も必要になるのではないか。そして、もっと広めていくために、大いに広報活動をして欲しい。例えば、高知市で「あかるいまち」があるが、そのようなところに情報提供して、大いに盛り上げていきたいと考えている。これからもっと会でじっくり話し合い、煮詰めていきたい。

＜高知社会福祉協議会　発表＞

提出した資料は全て私個人の意見なので、これまで教育行政に1回も携わったことがない人間の話として聞いてほしい。

「教育の日」をつくるのであれば、大変多くの財政的な負担をして準備をしている生涯学習フォーラムの精神、理念を活かすことにしてはどうか。第1回目の委員会のときにも、今回の広報が一過性のものにならないようにするため、今回からフォーラム形式にしたという説明があった。委員の中か

らも、フォローアップして、いかにその理念を定着させるかが大事だという意見もあった。

ただ、「教育の日」を考えたときに、「教育の日」の「教育」とは何かということが一番難しい問題ではないか。人によって家庭教育、学校教育、社会教育、あるいは生涯教育といったイメージで、それぞれ若干違うニュアンスで受け止められがちではないかと思う。私自身としては、いずれの教育であっても、この際多くの人が参加するしっかりした地域社会がまず求められると思う。まわり道的な感覚になるかもしれないが、やはりそこを主体にすべきではないかという気がする。

フォーラムの開催予定のところにも、最初に「地域社会を活性化し、持続させていくためには、県民一人一人がいろいろと高い志を持って学び続けるとともに、その成果を地域社会に還元する仕組みをつくる」と掲げられているので、地域社会に目を向けた取り組みが必要ではないだろうか。

2 の「教育の日」について、日時は総合開会式の日としているが、特にこだわるものではない。参観の行事云々は、地域社会をしっかりしたものにする意味での取り組みを望みたい。今、地域社会に対する県民の危機感が非常に強いと思うし、この地域社会の弱さゆえの痛ましい、悲しい出来事がたくさん起こっているので、このことを基本に置くべきではないかと思う。高知型福祉というものがあるが、これは単なる従来型の社会福祉ではなく、地域のつながりといったものを再構築していこうという、一種の 21 世紀型の地域づくり運動ともいえるものであるから、そういったものと密にしていけばどうかと考えている。

3 つ目については、書いてある福祉教育はあくまで例示的なもので、福祉教育も従前は学校指定中心でやっていたが、違うところは、地域全体を指定して地域全体で考えていこう、こういった部分から地域を見つめ直していこうという形に変わっている。県社協では、これまで 500 校ぐらいを指定して福祉教育推進をやってきたが、平成 16 年からは市町村単位で市町村社協を指定して、取り組むこともやっている。そういった広がりをこれから是非、持っていきたいと考えている。

共に支え合う住民運動とか、仕組みづくりという民生委員児童委員連合会の資料がある。これは、1,400 人もの民生委員が、それぞれの活動を組織として「この 1 年間、特に PR したいことは何ですか」ということでまとめた資料だが、この中にも、子どもとの出会いとか、地域との関わりを強く持った運動があり、最近は NPO やボランティアも地域、あるいは子ども関係をミッションにした団体が多くあり、そうした動きを結集して、地域の再点検や再確認ができる取り組みをしてもらいたいと思う。

4 つ目だが、これまでに制定した「〇〇の日」について、制定して効果があったかどうか、なければ、なぜなかったのかという検証が必要ではないか。

それから、2 番目の行政主導ではない取り組みは、この生涯学習フォーラムのコンセプトに、産学官民、NPO とのネットワーク構築、産学官民共同型の生涯学習への転換ということがかかってくるがまさしくそうだと思う。

私事で恐縮だが、県社協の方では、毎年、夏休みの終わりにボランティアフェスティバルをやっている。ボランティアの方に企画、運営を全て任せているが、4 月に第 1 回目が終わったときには、高校生を含め 30 人ぐらいのボランティアが集まってくれた。それが 3 回、4 回と会を重ねると 60～70 人に増え、当日は近隣の小学校の児童を含めて 200 人ぐらいになり、最終的に 1,000 名ほどの来場者と楽しく遊ぶことになる。従来型の「ああ、またこのメンバーでやりゆうか。」となれば、多分、その時点で興味を持たれず、面白そうにないと思われるので、このフォーラムのコンセプトにあるように、何か新しいものとの出会いは、地域再発見でいえば異なる文化や異なる次元の話を知ることであり、あるいは新しい体験をすることである。そうしたときどうしたらいいかと投げかけをすれば、きっと今までにない面白い話や、面白い方法も出てくるのではないかと思う。

とにかく、県民が見たときに何か一種の県大会のように見られる運営だけは避けた方がいいと思う。

〇委員

幅広い方がお集まりなので、少しお聞きしたいことがある。

11 月 11 日の「こうち山の日」だが、報道機関が多くの催しなどをアピールしたことで、県民も山を守っていかなければならないという気運も高まり、この日が定着し、徐々に浸透してきたと思う。子どもたちが「山を大事にする」という、いろいろな活動に参加をしているようだが、11 日だけだと限られるので、その日の前後で幅広く子どもを集める活動もあるし、山のボランティア育成とか、いろいろなことが行われている。「教育の日」がたくさんの人に浸透し、そこで子どもも大人も学べ、そこを活用して自分たちのやっていることがアピールできるとか、いろいろなことができるような日になればいいと強く思う。

それで、先ほども行政主導でない取り組みを考えたらという意見があったが、先ほどの「こうち山の日」などであれば、多くのボランティア団体やNPOがあちこちで動いていることを感じる。教育の場合も、もう少し充実してほしいという意見はあるが、それに主体的に関わり、自分たちでやっていこうという部分が何かもう一つ欲しいなと思う。良い方法や、関係機関の活用について、何でも構わないので聞かせてもらいたい。

〇副議長

今の意見と関連するか分からないが、私がすごくこだわるのは、何を変えようとして「教育の日」を制定しようとしているのか議論しておかなかったら、いくら方法論について協議しても意味がないと思う。今、高知県の大きな教育の課題は何なのか。そこを、もう少しみんなで議論しながら、「教育の日」だけではないが、せめて一つのきっかけづくりにすべきだと思う。

そういう意味で、外からご覧になっていて、それぞれの委員の方々が本県の教育を考えたときに、こういうことを皆でしようという意見があればお願いしたい。

〇高知県退職女性校長会

私たちが教員をしていた20年前と今では、地域も国も変わったし、保護者の学校に対する考え方もすごく変化しているため、現職の先生にいろいろと意見を述べることはできない。

今も昔も変わらないのは、「まず、何よりも子ども」ということ。私が教師をしていた時代は、「先生、思い切りやってや」、「少々、叩いてもかまんで」と保護者から言われた。男の子は「こけたら勲章や。膝がむけても唾を付けちょったらえい。」という時代だった。今はそういう雰囲気も変わったが、ずっと受け継がれていることもある。せめて教科書ぐらいはしっかり全員が読める、教科書中心でいきたいというようなこと。今後、教科書が変わったとき、教師はどのように教材研究をして、子どもにどのように力をつけていくかが課題になると思う。

〇高知県社会福祉協議会

「学校はもっとしっかりやってや」、「家庭でそこはやってや」、あるいは「そこは地域でちゃんとやってや」という、土佐弁でいう放りかけ合いというのは非常に耳にするが、そういったことをなくすために、私はもう一回地域というものを皆で考えようということを申し上げた。教育課題のことが出ていたが、やはり地域によって課題が違うのかなという気がする。佐川町のように全国的に模範となるようなネットワークづくりをやっているところと、やっていないところを比較してみれば、地域との繋がりがこういう点で影響することも分かってくるのではないだろうか。

〇委員

意見が出ていたように、理念というものをどう考えていくか、そこが全てだと思う。ただ、私たちは委員としては教育振興基本計画を策定したときに、きちんとその理念というものを示している。その中に四つほど理念があったと思うが、その中の二つは学校現場の対応である。与えられたなかでどうしていくのか。あとは、強みを生かす教育、郷土を愛する教育などで、そのような教育をどうやって広めていくのか。そのあたりが、すごく大切になってくる気がする。

もう少し的を絞って、例えば、高知の特性を活かすように、先ほど出ていた海をテーマにして海を活かしていくとか、食育を活かしていくとか。そうやって絞り込まないと、ぼやけてしまって分からなくなっていきそうな感じがする。

〇委員

私の感想だが、従来の持っていき方が良くないことはよく分かった。それではどうしたら良いかと言われてしまえば、却って頭の中が混乱状態になっている。ただ、意見で出ていた「自然を活かす」ということに関して、マイナスの面をプラスにすることは高知県の一番の強みであると思う。土佐弁で「はみかえる」と言うが、そういうエネルギーは土佐人にあると思う。それから、学校がやるとか、地域社会がやるとか、家庭がやるとかという部分を転換すると従来と同じになるので、家庭でもない、地域でもない、高知県民がやる運動だというような実践はどうだろうか。

〇副議長

「教育の日」を制定することは非常に良いことだ、やるべきだという意見が非常に多かったのは良かったなとつくづく思う。もちろん、制定の仕方等に関しては、いろいろと意見があるだろう。教育というものをメインにおいて、その日、あるいは１週間、あるいは１カ月、どんな形でもいいので、教育について県民皆で考えてみることは絶対大切だということを、どの団体も言われていたので、高知もまんざら捨てたものじゃないとつくづく思った。

少なくとも、この「教育の日」はいわゆる教育振興基本計画の中から出てきている。高知県の現状は何なのか、課題は何かということについて我々は議論をしてきた。あえて聞くまでもなく、高知県の課題については議論し尽くしていると思っている。教育振興基本計画をそのまま分厚いパンフで出しても、そんなものは誰も読まない。そうではなく、「教育の日」を一つの契機にして、キャッチコピーを作りたいと思っている。

例えば、総務省が作った「早寝早起き朝ごはん」というのは、私はすごく良いキャッチコピーだと思う。「教育の日」についても、どんな形になるか分からないが、簡単なキャッチコピーで良いので、教育振興基本計画を具体化し、県民のものにする一つの手立てとなるよう考えてみたらどうかと思っている。

〇議長

全国生涯学習フォーラムに向けて、「教育の日」制定を進めようという動きは当初と変わっていないが、今後の進め方としてはもう少し議論をする必要があると思う。今日の段階で、「はい、どっちか」というのは時期尚早と考える。28 団体のアンケートの整理もできたが、その他の関係者にも意見を聞く必要があるのか、ないのかという質問も多かったので、今後、「教育の日」の制定に向けてのスケジュールを改めて検討して、委員の皆さんにご協力願いたいと思っている。

・議題（２）平成21年度高知県教育委員会　施策の点検・評価について

事務局各課から資料の説明（点検・評価の概要及び個別事業の点検・評価結果）を行う。

〇委員

目標達成度のABCの根拠の部分、少し具体的な部分が見にくいなという感じを受けた。指標的なものが、すごくしっかりと出されている事業と、出されていない事業があり、その辺りを整理しておかないと、議会で厳しく問われる部分が出てきそうな感じがする。

〇事務局

②の検証方法の欄に各事業それぞれ書いているが、ここに定量的なデータがある事業とない事業があり、例えば教員指導力改革などは、なかなか測定しにくい部分もある。したがって、事務局の感覚で達成度を付けているという部分は確かにある。このことについては検証指標を見つけていくということを、全体の事業の課題として掲げており、前回第１回の会議でも、そういった検証指標を見つけながら事業を進めていくべきという指摘もいただいているので、今年度の課題としてそこは意識していきたい。

〇議長

少し検証の仕方にばらつきがあるという感じがする。それから、数値目標というのは、とても分かりやすくて大事であるが､数字に縛られて数値を上げたり下げたりすることだけに注目してしまうと、何のための点検・評価なのかということになる。

つまり、高知県の教育水準をどうやって高めていくのかは大目標で、それを達成するために、それぞれの課で課題を持ってやるわけだが、そこを意識して変えてもらわないと数字を掲げているだけになる。数字は大事であるが、教育というのは人間的な作業であるにも関わらず、数字化されるとちょっと問題だなと感じる。今年は点検・評価の仕方が随分改善されたと伺っているが､「このままじゃやりにくい」とか､「こうしたらいいのに」という意見が実際に担当してみると分かると思うので、日々改善してもらいたいと思う。

説明の中で、これは手前味噌という発言もあったが手前味噌はいけない。前に、教育委員会で事務局の評価は甘すぎるのではないかと、ひっくり返されたのを思い出した。どちらが正しいかという問題ではないが、やはり、公的な一つの一般的な評価として、自分たちは一生懸命やっているつもりだがではなくて、どういう評価ができるかということをしっかり意識してほしい。おそらく、教育委員会ではじっくりやられていると思うが。

〇教育次長

指摘のとおりだと思う。これは、各課が自分のところで作ったものを紹介した形であり、当然、教育委員会にもまだ説明していない。そして、施策、事業の評価になっているので、何回実施したかとか、これができたという観点で評価すると、評価はAになってしまうが、そのために「学校はこんなによくなりましたよ」とか「子どもがこう変わりました」というものが評価項目にないので、一般の方から見ると、この評価はかなり違和感があるのではないかと思う。どうしてAなのかという部分がいると思う。

議長が言われた教育委員会で差し戻しになった件は、何回やったかが問題じゃなくて、どうなったかが問題じゃないかという意見をいただき、その点が十分できていなかった。今回もかなり目標の立て方自体を研究してきたが、まだまだ甘い部分があるので、そういった部分で意見があれば聞かせてほしい。

〇議長

この報告は「案」ということだが、今後、教育委員会に出すまでには十分配慮をしてほしいと思う。一つだけ、①、②、③の並び方が気になる。①は「現状」とある。それを、こういう風に変えるという②の「目標」があって、その目標を達成するためにアウトプットとして③があることは分かるが、評価をするときは逆になるのではないか。どちらが良いか分からないが、聞いている側としては①、③、②の順番で報告してもらった方が、評価としては分かりやすいと思う。

〇委員

今後の見通しの書き方について、これは県の教育委員会が主語で始まると思うが、非常に分かりやすい課と分かりにくい課がある。どこをどう動かすかという点をもう少し書いてもらいたい。

〇議長

点検・評価で教育委員会に出すまでのポイントで何かあればお願いしたい。

以上で、本日の議事は全て終了した。「教育の日」の制定と点検評価については、事務局でもう少し頑張ってもらいたいということで、事務局にお返しする。

〇事務局

点検・評価については後日、様式を各委員に送付させていただくので、改めてご意見をいただきたい。